

行の高さ自動調整アドイン「AutoFitRowEx」の使い方

1 はじめに

2016/7に更新された WindowsUpdate によりアドインファイルのブロックを解除しないと使用できなくなりました。このため、ファイルのプロパティにてブロックを解除してご使用ください。リンク→[設定方法はコチラをご覧ください](#)

Excel には行の高さを自動調整する機能がありますが、結合セルに対しては自動調整が一切行われません。また、行の自動調整機能は印刷用に自動調整されているわけではないため、行の高さを自動調整したにもかかわらず、印刷時にセルの文末が印刷されないことがあります。

このため、各セルに比較的長い文を記載した場合、各セルが文末まで表示されていることを人が確認し調整するのが現状です。これによって、表示されていない文末が存在しても気付かず、Excel 文書を印刷した際によく気付くというトラブルが発生します。

本アドインは「結合セルを含めた行の高さの自動調整」および「印刷用の行の高さ調整」の機能を備えており、上記の問題を解決することができます

2 アドインの機能

2.1 行の高さの自動調整

本アドインを設定すると Excel 画面上で右クリックすると表示されるショートカテゴリー(右クリックメニュー)に「行の高さを自動調整」というショートカットが追加されます。「行の高さを自動調整」を選択すると、選択中のセルで指定された行に対して、行の高さの自動調整を行います。(選択はどの列でもかまいません)

行の高さの自動調整には「表示用」「印刷用」の2種類を用意しています。

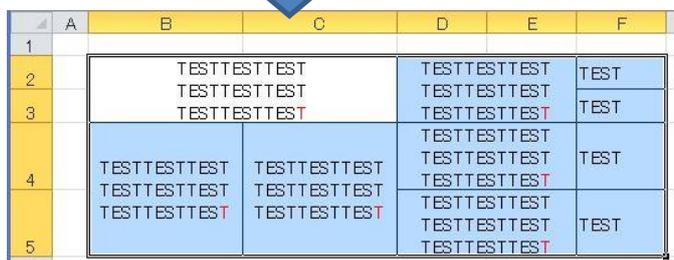
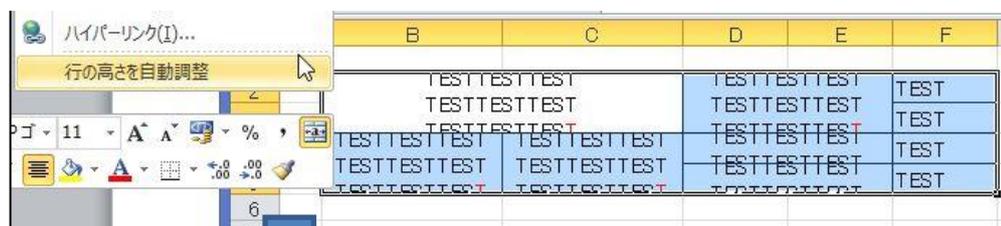
「表示用」を実行した場合

PC 上で表示を行う場合の最適な行の高さに自動調整します。印刷の必要がなく PC 上で表示させたい場合に適しています。

「印刷用」を実行した場合

印刷での最適な行の高さに自動調整します。各セルの文末まで表示して印刷したい場合に適しています。なお、1セル内に複数のフォントが指定されていた場合は高さを少し大きめに調整します。

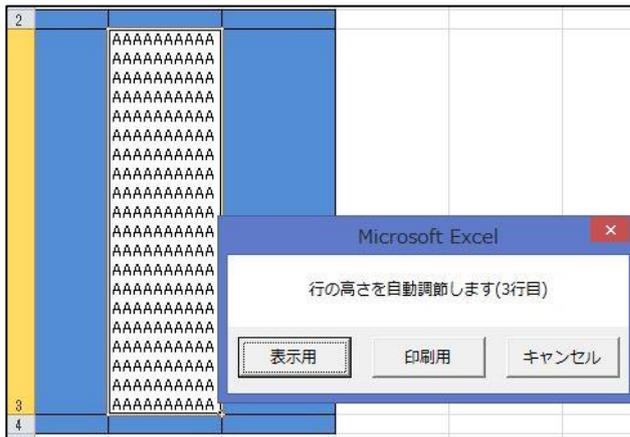
※一時作業ファイルとして「高さ調整マクロ一時作業用【残っていたら削除してください】」という名前を使用するため、同名のシートがあるとそのシートを削除してしまいます。このため、同名のシートは作成しないでください。
※VBA であるため戻る操作(Ctrl+Z)を行うことができませんので注意してください。



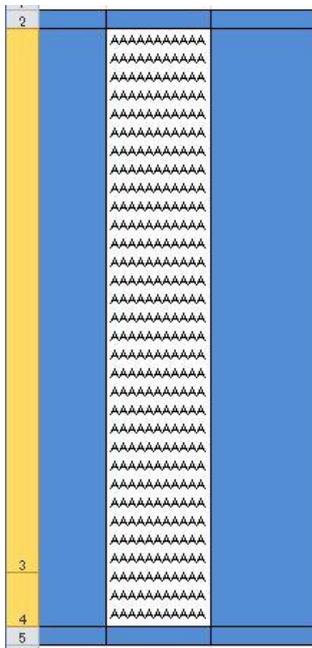
2.2 文がセルの行の高さの限界値を超えた場合の処理

本アドインは、文がセルの行の高さの限界値(409.5 ポイント)を超えている場合に、行を追加し自動調整する機能を備えています。

文がセルの行の高さの限界値(409.5 ポイント)を超えている場合、メッセージボックスを表示し、行挿入処理が OK の場合は行を挿入して高さを自動調整します。キャンセルの場合は行を挿入せずに高さを自動調整します。行を挿入した際は、挿入した行のセルとその一つ上のセルを自動的に結合します。このメッセージボックスは実行時に 1 回のみ表示し、以後はメッセージボックスで選択された処理を他のセルの高さが 1 行の限界値を超えたセルに対しても行います。



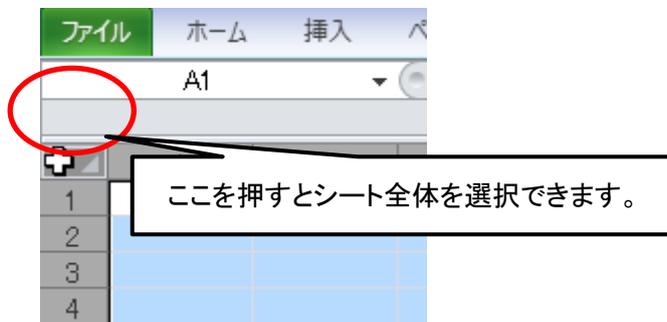
←文が行の高さの限界値を超えている。



2.3 シート全体への実行

シート全体に対して高さの自動調整を行う場合は、シートの一番左上(下図参照)をクリックした後、右クリックでショートカットメニューを表示し「行の高さを自動調整」を実行してください。

実行は「1行目」から「記載されているデータがある最終行」に対して行います。そのため、記載範囲が巨大でない限り実行時間はそれほどかかりません。



2.4 ショートカットキー

「Ctrl + Shift + r」を押すと、本アドインのウィンドウが表示されます。

「Ctrl + Shift + t」を押すと、ウィンドウ表示なしで「表示用」の高さ調整が実行されます。

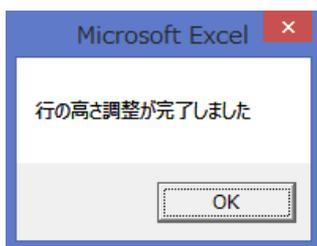
「Ctrl + Shift + y」を押すと、ウィンドウ表示なしで「印刷用」の高さ調整が実行されます。

2.5 ステータスの表示

現在の処理状況は、Excel ウィンドウの左下にあるバーに表示されます。



処理完了時には、下記のメッセージボックスを表示します。



2.6 非表示行に対する対応

Excel 標準の行の高さ自動調整機能を非表示行に対して実行すると、非表示が解除されてしまい、再度非表示に手で戻す手間が発生します。この問題を解決するため、本アドインでは、行の高さ自動調整を行った後で実行前に非表示だった行を非表示に戻します。

2.7 非表示列に対する対応

非表示列のセルに対しては、「表示用」「印刷用」のどちらも Excel 標準の行の高さ自動調整のみ行います。

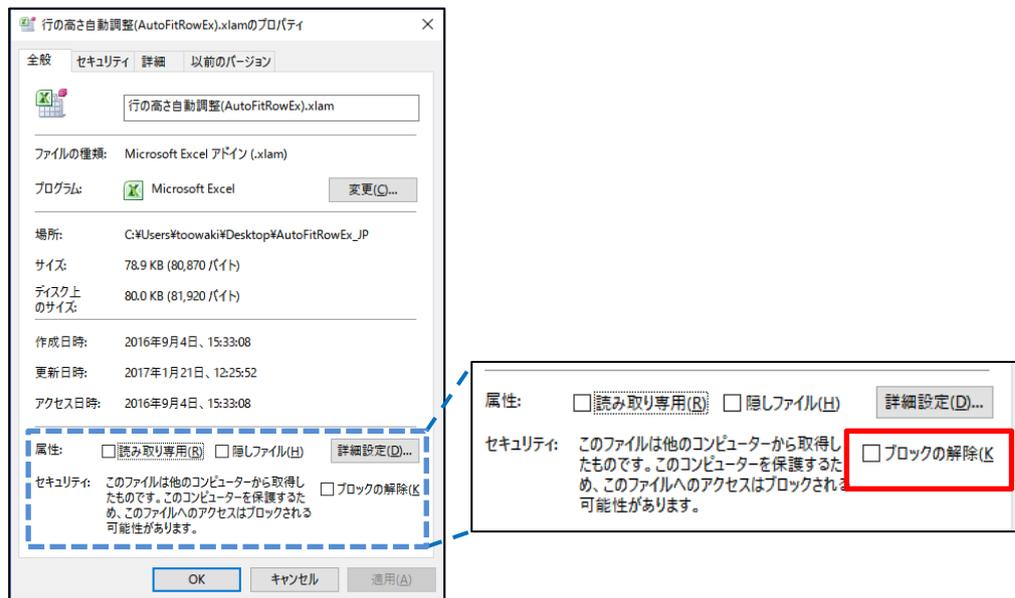
3 アドインの設定

アドインの設定方法は、google 等の検索サイトで「Excel アドインの使い方」などと検索していただくと丁寧な説明が記載されたサイトが出てくるため、そちらを読んでから手順1へ進むとスムーズに設定できると思います。

3.1 手順 1:アドインファイルのブロックを解除

※2016年7月頃の Windows Update によりインターネットから取得した Excel アドインはブロック解除しないと使えないようになっています。このため、Excel アドイン(行の高さ自動調整(AutoFitRowEx).xlam)のプロパティ画面を開いてブロック解除を行ってください。これにより使用できるようになります。

(ファイルを右クリックして、プロパティを選択すると下記プロパティ画面になります。)



3.2 手順 2:アドインをアドインフォルダへコピー

C:\Users\【ユーザー名】\AppData\Roaming\Microsoft\AddIns (【ユーザー名】はユーザーによって異なります) にエクセルのアドインを保存する場所があるため、そこに本アドイン(行の高さ自動調整(AutoFitRowEx).xlam)を保存してください。なお、Excel97~2003の方は「Excel97-2003用(xlaファイル)」フォルダの中に、Excel97-003用のアドインを用意しておりますのでそちらをご使用ください。アドイン設定時に上記フォルダを開くため、その時に本アドインを保存すると簡単に保存することができます。

※Excel2013ではAddInsフォルダに保存しないと動作しないようでした。このため、アドインは、上記のAddInsフォルダに保存してください。またアドインは実行時に毎回読み出すため設定後もアドインファイルは同じ場所に保管してください。

3.3 手順 3:アドインの指定(Excel2010の場合)

- (1)Excel画面にて[ファイル]ツールバー → オプションを押し、Excelのオプションダイアログを開きます。
- (2)[Excelのオプション]ダイアログボックスの左ペインで、[アドイン]をクリックします。
- (3)ダイアログボックス下の[管理]リストボックスが「Excelアドイン」になっているのを確認して、[設定]ボタンをクリックします。
- (4)実行すると[アドイン]ダイアログボックスが表示されます。
- (5)[参照]ボタンをクリックします。実行すると[ファイルの参照]ダイアログボックスが表示されます。
- (3)先ほど手順1で保存したアドインを指定してください。これで設定完了です。
アドインはExcel起動時に読み出すようになっているため、Excelを再起動してください。

3.4 その他:アドインの設定解除

- (1)[アドイン]ダイアログボックスで『行の高さ自動調整(AutoFitRowEx)』のチェックボックスをオフにします。
- (2)アドインの実体(行の高さ自動調整(AutoFitRowEx).xlam)が保存されているフォルダを開き、アドインの実体(xlamファイル)を別のフォルダに移動、または削除します。
- (3)アドインの実体(.xlamファイル)が存在しなくなった状態で[アドイン]ダイアログボックスを開き、登録を解除したいアドインをクリックします。
実行すると「アドインが見つかりません。リストから削除しますか?」という確認が表示されます。
ここで[はい]ボタンをクリックすると、アドインの登録が解除されて[アドイン]ダイアログボックスのリストから消去されます。

- 4 ご自身の VBA で行の高さ自動調整機能を使用したい方のために
ご自身の VBA で行の高さ自動調整(AutoFitRowEx)機能を使用したいという方のためにメッセージを表示しない関数
を用意致しました。「行の高さ自動調整(AutoFitRowEx).xlam」アドインを設定した状態で VBA に下記の記述を記載
すると選択している行に対してメッセージ表示なしの行の高さ調整マクロを実行することができます。
なお、セルの行高さ限界値(409.5 ポイント)の場合の行挿入の機能は無効にしています。
また、シートの保護がかかっているシートに対しては高さ調整はできません。

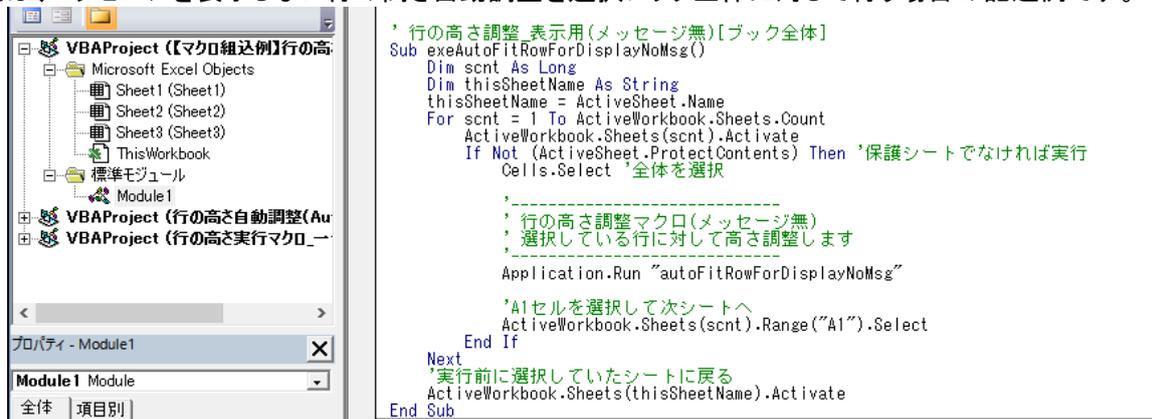
■表示用

Application.Run “autoFitRowForDisplayNoMsg”

■印刷用

Application.Run “autoFitRowForPrintNoMsg”

下記は、メッセージを表示しない行の高さ自動調整を選択ブック全体に対して行う場合の記述例です。



```
' 行の高さ調整_表示用(メッセージ無)[ブック全体]
Sub exeAutoFitRowForDisplayNoMsg()
    Dim scnt As Long
    Dim thisSheetName As String
    thisSheetName = ActiveSheet.Name
    For scnt = 1 To ActiveWorkbook.Sheets.Count
        ActiveWorkbook.Sheets(scnt).Activate
        If Not (ActiveSheet.ProtectContents) Then '保護シートでなければ実行
            Cells.Select '全体を選択
        End If
    Next
    ' 行の高さ調整マクロ(メッセージ無)
    ' 選択している行に対して高さ調整します
    Application.Run "autoFitRowForDisplayNoMsg"
    'A1セルを選択して次シートへ
    ActiveWorkbook.Sheets(scnt).Range("A1").Select
End If
Next
'実行前に選択していたシートに戻る
ActiveWorkbook.Sheets(thisSheetName).Activate
End Sub
```

5 動作環境

•Excel97～2003, Excel2010, Excel2013, Excel2016,
Excel2019(Office365 MSO(16.0.11425.20220) 32bit にて確認)

6 使用条件

このプログラムはフリーウェアです。著作権は、toowaki が持ちます。
転載は自由に行ってください。
また、当ソフト添付のアドインの改ざん・変更等を行わないようお願いいたします。

7 免責

このプログラムを使用して生じた損害等につきましては、作者はいっさい関与しません。
使用者の責任で、本プログラムを使用してください。

8 連絡先

何かご要望等ございましたら、toowaki.fc2@gmail.com までメールお願いします。
また、下記 URL に本ソフト以外にも公開しておりますのでもし良ければご覧ください。
<http://toowaki.web.fc2.com/>

9 履歴

日付	内容	Ver.
2014/10/28	新規作成	1.0
2014/12/05	シート全選択の際のオーバーフローに対して対応	1.1
2014/12/12	シート全選択の際のオーバーフローに対して対応しきれいいなかったため修正	1.2
2015/01/06	数式セルに対しての高さ調整に対応	1.3
2015/01/24	非表示列、非表示行に対する処理に対応	1.4
2015/02/05	<ul style="list-style-type: none"> ・Excel2003 以前のバージョンで動作するように修正。 ・「自動調節」という単語を「自動調整」に統一 	1.5
2015/03/21	<ul style="list-style-type: none"> ・保護されたシートの場合はメッセージを表示し高さ調整は行わないようにした 	1.6
2015/04/04	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷用の行の高さ調整機能を「メイリオ」、「Meiryo UI」フォントに対して対応した。また、その他マイナーなフォントにも対応した ・高速化のため数字のみのセルは高さ調整は標準機能の高さ調整のみ行うようにした。 ・Excel2013 のみで稀に極度に処理速度が遅くなる現象が発生していたため、ウィンドウを最小化して回避する修正を行った。 	1.7
2015/04/26	<ul style="list-style-type: none"> ・行番号上でも右クリックメニューに「行の高さを自動調整」が表示されるようにした ・Excel2013 にて印刷用で実行した際にごく稀に文末が切れることがあり微調整を行った 	1.8
2015/07/12	<ul style="list-style-type: none"> ・表示を「ページレイアウト」にした場合に「行の高さ自動調整」機能を使用すると停止してしまう現象を改善した。 ・ショートカットキー「Ctrl + Shift + r」を押すと行の高さ自動調整の画面が表示されるようにした 	2.0
2015/10/31	「印刷用」における高さ調整幅を Excel2013 とそれ以前で分けていましたが、それ以前の動作に統一した	2.1
2016/08/15	<ul style="list-style-type: none"> ・ショートカットの説明をユーザーフォームに追加した ・結合セル内の列が多い場合の行の高さを調整した 	2.2
2016/09/04	<p>自身の VBA で行の高さ自動調整(AutoFitRowEx)機能を使用したいという方のためにメッセージを表示しない関数を用意した。アドインを設定した状態で下記を VBA で実行すると選択行に対して実行する。</p> <p>‘表示用</p> <p>Application.Run “autoFitRowForDisplayNoMsg”</p> <p>‘印刷用</p> <p>Application.Run “autoFitRowForPrintNoMsg”</p>	2.3
2017/01/21	WindowsUpdate によりアドインが起動しなくなる原因とその解決方法を記載→ 詳細はこちら 。	
2017/05/20	右クリックメニューの表示をコマンドバーによる設定からリボン UI による設定に変えました。Excel2007 以下に関してはこれまで通りです。	2.4
2017/10/29	共有ブックではシートが消せないため、共有ブック使用時は行の自動調整機能は使えないようにしました。	2.5
2018/05/19	Office の Update により MS フォント(MS ゴシック、MS P ゴシック等)の印刷時の高さの仕様が変更されており、正しく印刷の高さに調整されなくなっていました。このため、印刷用で高さ調整を実行した際に MS フォントに関し行の高さに余裕をもたせ、全ての文字が切れずに印刷されるように調整しました。	2.6

2019/12/15	<p>下記2つのショートカットを追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「Ctrl + Shift + t」を押すと、ウィンドウ表示なしで「表示用」の高さ調整が実行されます。 - 「Ctrl + Shift + y」を押すと、ウィンドウ表示なしで「印刷用」の高さ調整が実行されます。 	2.7
2021/03/06	<p>V2.7 までは標準フォント未満のフォントサイズのセルに対して、標準フォントサイズで高さを調整するようになっていました。この点を修正し、標準フォントに関係なく対象のセルのフォントサイズに合わせて高さを調整するようにしました。</p>	3.0
2021/03/17	<p>V3.0 の修正にて不具合が発生しており、修正しました。(V3.1 は欠番)</p>	3.2